

越教組ニュース

越谷市教職員組合
ホームページ



夏休み等の短縮に職員の声

夏休み短縮問題で越教組が申し入れ

来年度からの夏休み等の短縮問題について、越教組は市教委と話し合いをした。市教委は、具体的な案を示さないまま、教育委員会会議にはかり、決定された内容を下ろす計画でいることが分かった。越教組は、小学校の授業時間増への対応について現場の教職員の声を聞くことなしに計画を進めることがないよう求めた。

要望書への回答

■夏季休業等の短縮の検討を直ちに止めること。
市教委…来年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、小三・小六で年間三五時間の時間増となる。その対応ということで、夏季休業等の短縮の検討は避けては通れない。
■現在までの検討経過と今後の検討計画を明らかにすること。
市教委…カリキュラム・マネジメント検討委員会(以下「カリ検」)において、教職員の働き方改革を含め時間増への対応を

校長と教員は立場が違う

校長は現場をよく知っている。先生方の働き方もよく知っている。負担軽減の視点からも考えてもらっていることだが、はたして校長が教員の代表足りうるのだろうか。前号で指摘したことだが、市の衛生委員会には事業者側の代表八名に対して労働者側代表として管理職以外の教員が八名出て、同数が対等の立場で協議している。

日数増は負担を重くする

教育委員会は、現在各学校で実施されている授業数時を前提として、それに三五時間を付け足すという発想しかないようだが、もしそうであれば、月曜日はB日課6時間にすれば、年間三五時間は確保できる。

本来の授業を大事にしたい

現在の授業をさらに実質的な授業時間にしていく工夫も大事な視点だ。教育課程にないことも、やらなければならぬことが多いのではないだろうか。例えば体力テストで、一度洗い出してみたらどうだろうか。これらをストックしていけば、実質的な授業時間の確保になるだろう。

校長会では協議なし

カリ検に出ている校長は、小中それぞれの校長会長一名、副会長二名の計六名。実は、校長会では授業時間増への対応については一度も協議したことがないとのこと。

計画に教員の声を

市教委は、時間増への対応について計画の時期や内容を明らかにしていない。教育委員会会議に諮っていないので、明らかにできないというのだ。市教委は、はなから教員の声を計画に反映させる気がないのだ。ことは、働き方に関わる問題だ。越教組は、①カリ検

